

# 委員会活動報告 先進地などへ視察調査

## 総務常任委員会

シティプロモーションの  
推進について 8月7日 長野県佐久市  
8月8日 東京都八王子市

長野県佐久市及び東京都八王子市のシティプロモーションの取組を視察した。



佐久市のシティプロモーションの目的は、人口減少を緩和するために市内への移住を促進することである。

佐久市は、ビジネスチャットツール「Slack」<sup>スラック</sup>を活用した自治体初の移住のオンラインサロン「リモート市役所」と「試住(=お試し移住)」の支援及び補助金サービス「Shijuly」<sup>シジュリ</sup>の取組により、インターネットを介して交流人口、関係人口を増やすことに成功している。

ターゲットを「20代～40代の東京圏在住の移住希望者」に設定しており、インターネットというツールがターゲットの世代にマッチしている。

東京近郊に位置しベッドタウンとして発展してきた白岡市においては、「都市部から地方への転出」といった意味での移住の対象にはならないが、特色のある企業の誘致等でシティプロモーションに活用できるコンテンツを増やすなど、立地を生かした関係人口、交流人口を増やす施策を期待する。

八王子市のシティプロモーションの中心にあるのは、「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」というブランドメッセージである。

このブランドメッセージは、公募で集まった市民が考え、市民の選挙によって決定された。このような意思決定に参画した人達は、その後も市に関心を持ち続けてくれるものであり、シビックプライドの醸成につながる。

また、八王子市の特徴は、庁内の意識醸成のための「インナープロモーション」の取組である。市のブランド価値を高めるためには、市の職員一人ひとりがブランドの担い手であることを意識することが大切との思いから、職員としてのあるべき姿をまとめた冊子「みちBOOK」やブランドメッセージ入りのネックストラップを全職員に配布している。それらによって職員の市に対する誇りや愛着が醸成されるのであれば、決して無駄ではない。当市においても、同様の取組をしてはどうか。



## 文教厚生常任委員会

児童虐待防止について 7月18日 千葉県野田市

野田市で発生した児童虐待死事件から4年が経過したが、全国で虐待事件は後を絶たない。このような事件が起こらないようにするため、野田市が行った三つの対策について、当市で早急な対応が必要である。



(1)通報があれば、すぐに現場(学校や幼稚園、

保育園など)に行き、児童生徒を市役所で保護するという早期発見体制の構築

(2)訪問した時に拒否されれば重篤と判断し、警察に連絡するというスムーズな連携体制の構築

(3)教育委員会内に子ども家庭総合支援課分室を配置。また、児童相談所とリアルタイムで情報共有できる児童虐待防止管理システムを導入。更に、実務者会議や個別支援会議を頻繁に開催し、関係者間での情報共有、問題意識の共有化を図るといった各機関との連携不足の解消